

新作は「音楽ドキュメント」

01

あつという間の50年だった。
夢中になって駆け抜けて来たからなあ…。

何でもありのドキュメンタリー映画創り
だったけど、いつの頃からか「ヒューマン
ドキュメンタリー」と、私の作品群は呼ば
れるようになる。

酒が入った時などに時々口にしたのは、
「音楽ドキュメントとスポーツドキュメン
トの傑作を遺してくたばりたいなあ…」
という繰り言だ。ガキの頃から、音楽とス
ポーツが好きだったからね。

で、映画生活50年の新作は、音楽ドキュ
メント。傑作であろうと駄作であろうと
かまうことはない。創りたいから創ったの
だから。

そのチラシに「《不在》の音」という
メッセージを書いたので、読んでほしい。
そして、観に来てくれたら嬉しい…。

「《不在》の音」

(映画『PASCALS～しあわせのようなもの～』チラシより)

2021年の正月、ひよんなことからパスカ
ルズの「さるハゲロックフェスティバル」
用のショートムービーを頼まれて、ほとん
ど初めてのようにパスカルズのみんなと出
逢った。でも、ずいぶん昔からの友達の一
ような気がしたし、音楽も、なんだかとて
も懐かしかった。

リーダーのマツさんは、前の春に突然旅
立ったメンバーのチェリスト 三木黄太さん
のことをとても気にされて、そのショール
ムービーを三木さんに捧ぐような気持ちの
ものにしたいと言っていた…。マツさんは
その気持ちのままに、2021年の春と2022年
の春、コロナ禍の中で、三木さんの追悼ラ
イブを企画した。メンバーのみんなの気持
ちも同じだったに違いない…。私も撮らな
いわけにはいかない気持ちになっていた。

「二十五年来一緒にバンドをやってきた
から、もう三木さんのチェロの音がパスカ
ルズみんなのカラダの中に入りこんじゃっ
ているんだ…」と語ったまま、マツさんは
黙った…。

2022年の秋、三木さんが最後の時を過
した長野・伊那谷の工房を訪れ、付近の森
を歩きながら、きっと三木さんのカラダの
中にもメンバー13人のパスカルズの音が入
りこんでいたに違いない…。その三木さん
のカラダがこの森の空気に触れていたんだ、
と感じたとき、パスカルズの音楽が聴こえ
てきた。ふと《しあわせのようなもの》と
いうサブタイトルが浮かんだ。

「《不在》という在り方もある…」とパ
スカルズのもう一人のチェリスト坂本弘道
さんは、三木さんの《不在》を語ってくれ
た。《不在という在り方》を抱えながらの
パスカルズの音楽が、映画に写ったような
気がする。

人は誰も、誰かしらの《不在》を抱えな
がら生きている。

そして、人は誰も、いつの日か
《不在》という在り方を生きるのだ。
耳を澄ませると確かに聴こえてくる。
《不在》の音、が聴こえてくる。

音楽は いいなあ…
映画も いいけど…

伊勢 真一

《伊勢真一映画生活50年記念上映会》
2023年 1月29日(日)
日比谷図書文化館B1Fホール
11時～『奈緒ちゃん』長編デビュー作
13時30分～『パスカルズ～しあわせのようなもの～』
※いずれも、上映後ゲストトークあり。
【問合せ・予約】いせフィルム
ise-film@rio.odn.ne.jp